

聖餐（せいさん）、聖餐式について

まず、聖餐式の式文を確認しましょう。

「わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、『これは、あなたがたのためのわたしの体である。私の記念としてこのように行いなさい』と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、『この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい』と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。従って、ふさわしくないままで主のパンを食べたり、その杯を飲んだりする者は、主の体と血に対して罪を犯すことになります。だれでも、自分をよく確かめたうえで、そのパンを食べ、その杯から飲むべきです。主の体のことをわきまえずに飲み食いする者は、自分自身に対する裁きを飲み食いしているのです。」      コリントの信徒への手紙一 11章23節～29節

これは、教会の聖餐式でよく読まれている聖書箇所です。聖餐式は、イエス様が、わたしたちの罪のために十字架で、ご自身の肉を裂かれ、血を流し死んで、わたしたちを罪から救って下さったことを心から喜び感謝する儀式です。イエス様を信じて歩むわたしたちにとって、なくてはならないものです。

洗礼式で水が罪のきよめとして用いられるように、聖餐式では、イエス様の体と血としてパンとブドウ酒（最近ではいろんな事情でブドウジュース）が用いられます。わたしたちは聖書から、イエス様の十字架の死を信じ知っています。このことをパンとブドウ酒は、目に見えるかたちでわたしたちに伝えていきます。

聖餐式は、イエス様が十字架にかかる前に弟子たちと最後の食事をされたことに起源をもちます。上の式文にある通りです。それによって、イエス様は、パンをご自身の体、ブドウ酒をご自身の血と宣言されたのです。イエス様が十字架にかかる前でしたから、一緒にいた弟子たちが本当の意味をわかっていたとは思えません。本当にわかったのは、イエス様が復活してご自身をあらわされてからでした。その後の弟子たちの働きは、使徒言行録にもあるように、めざましいものでした。ペンテコステのペテロの説教の後の3千人の洗礼と聖餐のパン裂きの記述にも見て取れます（使徒言行録2章参照）。

皆さんの中には、イエス様を救い主として告白して、聖餐式のパンとブドウ酒あるいはブドウジュースにあずかっている人もいるかもしれません。その人は、引き続き感謝と喜びを持って聖餐式にあずかりましょう。また、信仰告白していないとか、イエス様を信じきれないとかで聖餐式を見ることはできても、その中に参加できていない人もいるかもしれません。その人は、自分の罪が神様の前にどれほど大きいのか、その罪からどうすれば救われるのか、救われた者としてどのように感謝して生きるのか、を遠回りと思わないで考えてみて下さい。それが、イエス様を信じ、聖餐式にあずかることのへの一番の近道なのですから。      （若月 学）